

## 単位コード 適用細則(案)

### 1. 主旨

- (1) JLAC10 では結果識別を標記する領域であった最終桁 2 桁をJLAC11 では単位コードとする。
- (2) 単位コードは他のコードとの紐付きはせず、独立させる。
- (3) 2015 年時点で使用されている単位をコード化する。(過去に使用されていた単位は反映しない)
- (4) 検査依頼を 00 に固定し、結果とは明確に識別する。
- (5) 単位コード 2 桁のうち、先頭を数字及び英字(A~Z I,O を除く)、二桁目を 0~9 の数字で標記する。

### 2. 単位表記について

- (1) 標準単位を採用する。
- (2) 英数字は半角文字を使用する。
- (3) 日本語、ギリシャ文字などは全角文字を使用する。
- (4) 日本語の半角カナ文字は使用しない。
- (5) ローマ数字は使用せず、算用数字を使用する。
- (6) 上付き、下付き文字は、使用しない。
- (7) べき乗は  $10^*$ とアスタリスクと数字で表記する。  
例)  $10^2=10*2$ 、 $10^4= 10*4$  など
- (8) 省略を意味する「.」は用いない。C.O.I→ COI
- (9) (9)1 日:d、1時間:h、1分:min、1秒:s を使用する。
- (10) リットルはLを使用する。
- (11) モルは mol を使用する。
- (12) 尿中濃度のクレアチニン補正は -Cr と表記する。

### 3. 付番について

- (1) 結果単位コードとして 2 ケタを使用する。
- (2) 先頭を数字及び英字(A~Z I,O を除く)、二桁目を 0~9 の数字で標記する。
- (3) 新しい単位の付番については順次、単位コード表に続けて付番する。
- (4) 極力その項目独自の単位記号の採用は避ける。例えば EBV-IgG(EIA 法) index(GI)等は index を汎用する。

### 4. 採番について

SI 単位系の表記が理想ではあるが、臨床検査の現況に鑑み、下記を留意事項とする。

- (1) 血算検査: 赤血球数は、 $10^6/\mu$ 、白血球および血小板数は、 $10^3/\mu$  とすることが望ましい。
- (2) 生化学検査: 標準化対応法に準じた検査項目については、U/L とすることが望ましい。(CK、AST、ALT、LD、ALP、 $\gamma$ -GT、ChE、アミラーゼ)